

画像処理設計ツール

Image Processing Builder

説明書

1. ファイル

- IPBuilder.exe …… ソフトウェア本体
- ～.ipb …… IPBuilder で保存された各種の処理プロセス／処理モジュール

2. インストール方法

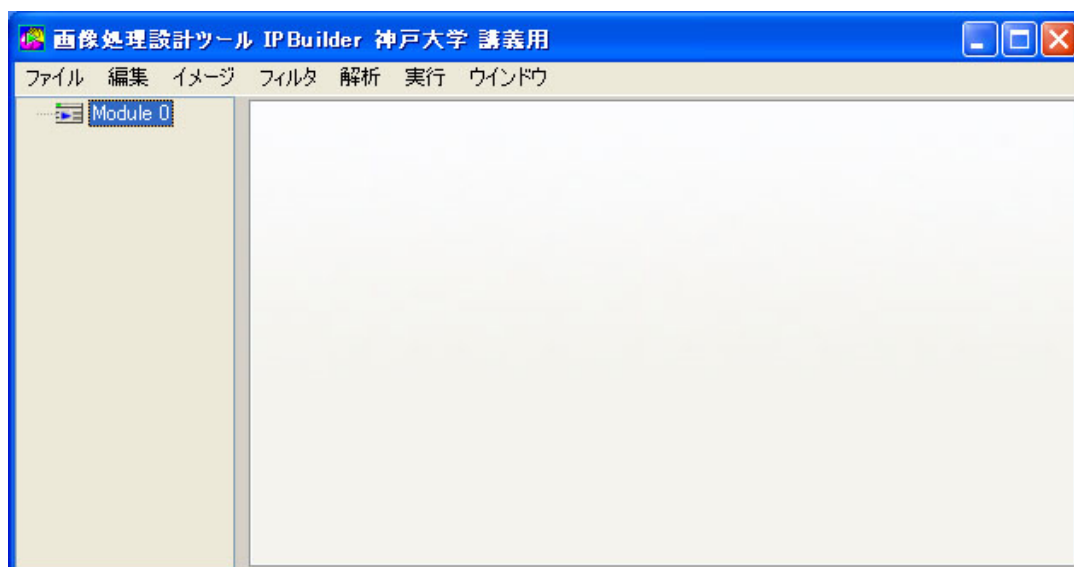
特別なインストールは必要ありません。IPBuilder.exe をそのまま起動して下さい。

3. 画像／映像ファイルの種類

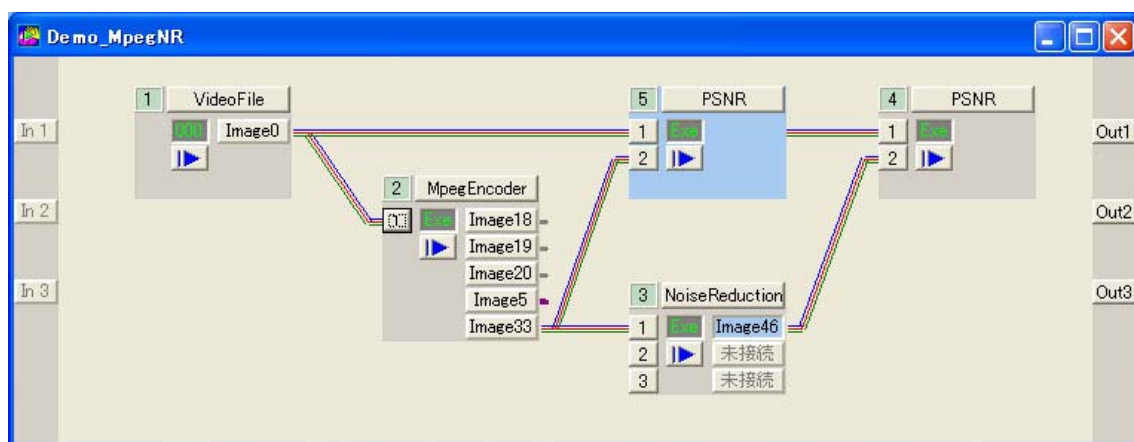
- 8 bit / ch カラー画像 : ～.bmp、～.jpg、～.gif、～.png
- 動画画像 : ～.avi
- ハイダイナミックレンジ(HDR)画像 : ～.hdr (Radiance 32 bit RGBE)
- 32 bit /ch 整数型 : ～.tif
- 32 bit /ch 浮動小数点型 : ～.tif
- 32+32 bit /ch 複素数型 : ～.tif

4. 各種デモの実行方法

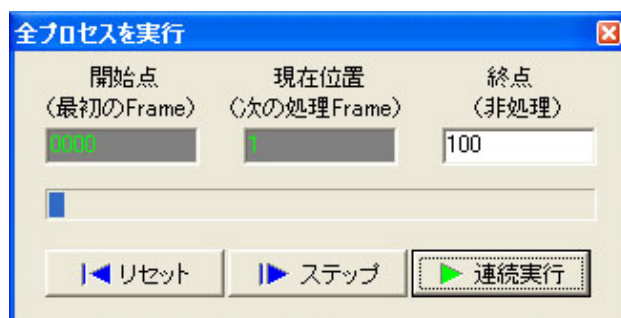
IPBuilder.exe を起動します。



“ファイル”メニューの“開く”からデモ・ファイル（例えば Demo_Mpeg.ipb）を指定するか、またはマウスでそのファイルをウインドウ上にドラッグ&ドロップすると、次のように画像処理のプロセスが表示されます。

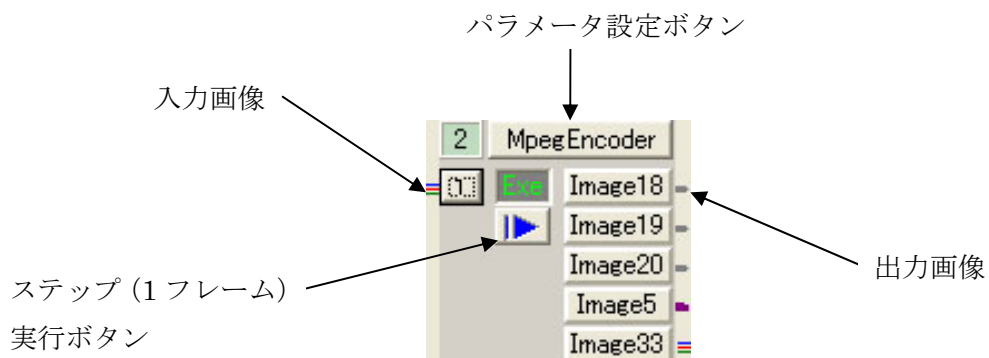


“実行”メニューから“ステップ（1フレーム）実行”や“連続フレーム実行”を選択すると、下の実行コントローラが現れ、画像処理が行われます。



4. 処理画像／処理パラメータの確認方法

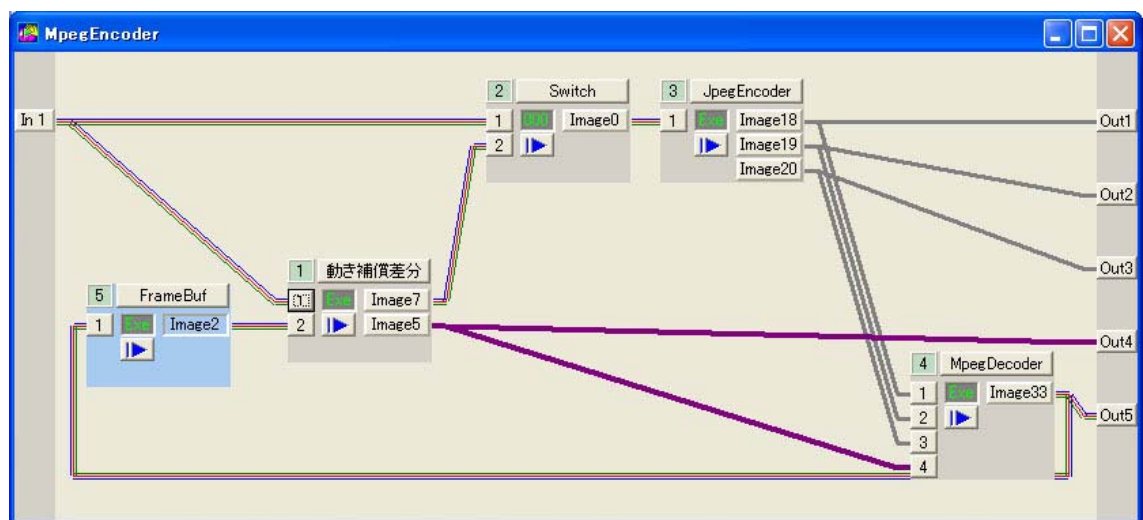
各処理ブロック中のボタンは次のようになります。



“入力画像”や“出力画像”のボタンを押すと、次のように画像を確認することができます。



“パラメータ設定” ボタンを押すと、そのブロック内のパラメータ設定ダイアログが開くか、またはさらに下位階層のプロセスが表示されます。例えば **MpegEncoder** のボタンを押すと次のように下位階層のプロセスが表示されます。



さらに下位階層へと進み、例えば **DCT 8x8** のボタンを押すと次のようなパラメータ設定ダイアログが開きます。



The image shows a software dialog box titled "DCT 8x8". It contains two radio buttons: "正変換" (Forward Transform) which is selected, and "逆変換" (Inverse Transform). To the right, there is a text input field for "Qスケール(=倍率)" (Q Scale (= Multiplier)) with the value "1", and a dropdown menu for "量子化テーブル" (Quantization Table). Below these controls is an 8x8 grid of numerical values. The first cell (top-left) is highlighted in blue. At the bottom of the dialog are three buttons: "プレビュー" (Preview) with a play icon, "OK", and "キャンセル" (Cancel).

8	16	19	22	26	27	29	34
16	16	22	24	27	29	34	37
19	22	26	27	29	34	34	38
22	22	26	27	29	34	37	40
22	26	27	29	32	35	40	48
26	27	29	32	35	40	48	58
26	27	29	34	38	46	56	69
27	29	35	38	46	56	69	83

パラメータ設定後に“ステップ (1 フレーム) 実行ボタン”を押すと、その処理ブロックのみを実行して結果を確認することができます。

以上のようにパラメータを調整しながら処理結果を確認することにより、画像処理の効果を確かめて下さい。

以上